

新年度にあたって

学級づくり・学習指導の肝はここだと考えますので、全教職員で共有したいと思います。

教育者の最大の務めは、「心への点火」である。

それは、教師の不断の言葉や表情、行動が、接する子どもたちを共鳴から共感へと誘い発火させる静かな点火、すなわち「感化」と、新しい価値との遭遇による激しい心騒ぎ、「感動」の機会を供することである。

教師としての修養も教材や指導法の研究も、全てこの一点のためにあるとあってよい。感動をもたらす体験重視の声をよく聞く。それも然りであろうが、子どもにとって最も大切な「感化」と「感動」の場であるべきは、毎日の教師その人との出会い、ふれあいであることを忘れてはならない。心への「点火」は心によるしかない。だから教師は、各々の夢と迷いに満ちた心を偽らず、職の慎みを添えて語ることだ。その姿勢をもって、我々の「自信」と言おう。

山崎滋夫先生 「玖島の抄」より

わたしが、肝に銘じていることの一つです。教職に就いて5年を経過した頃、心に甘えが出やすくなったり、手を抜く術を知り始めたりしていた頃、この文章に出会い衝撃を受けました。教師としての責任を重く感じたことを思い出します。それからは、この先生の講演や講義には、機会がある度に足を運ぶようにしました。一言で言うと「言葉に力があり、それが実践に裏打ちされている」ということでした。この先生は次のようにも言われます。

どうも「自信」というものは「謙虚」という隠し味がなければ、人の喉を通りにくいものらしい。特に「教えてやろう」という小骨は歯にさわる。人の言葉は、よい音楽のように、心に語るものでありたいものだ。

思うに教育は、より価値高い人間への成長を促し、励ます営みであるが、人間、特に「自己に目覚めた人間」は、自らの心に感ずる何かがなければ、変わらない。

志を語らない教師の下で、志の高い若者が育つはずがない。

山崎滋夫先生 講演より

1日では無理でも、1年間の内に数回は、子どもたちの心に感じる何かを投げかけたいと思うようになりました。自己を見つめ直すきっかけとなったことをよく覚えています。最近拝聴したのは、五島での講演会でした。わたしが初めて拝聴した、教育センターでの講義から20年近くの時が流れていましたが、まだまだ「教育」について熱く語られる姿に「子どもたちのために」という意識がまた強くなりました。

共有したい職員の意識「15項目」を紹介します。ここでいう教師は、学校で働く職員全てだと考えています。

- ①発生した問題の半分は指導（対応）に原因があると思っておくと案外うまくいく。**まずは児童理解。**
- ②教師が設定した目標を超えて子どもは成長しない。（校外では別）
- ③授業改善は**評価観の改善**から。（どこを落としどころ、着地点にするのか）
- ④**指導は徹底**しないと教育にならない。（トイレのスリッパ論）
- ⑤指導は**教育することと、鍛えること**で成果を生む。
- ⑥教育は**面倒くさいことを継続**すること。
- ⑦全ての指導は「ほめて」「認めて」**完結**させる。
- ⑧**雑な指導や突き放す教育は、遠回りで苦勞**することが多い。
- ⑨**特別支援教育を基盤**とした**子ども目線の教育**。
- ⑩明るく、元気な子どもを育てると、自然と学校（教室）が明るくなる。
- ⑪まずは、「**あいさつ・返事・姿勢**」から。
- ⑫成果を望むなら1・2学期が勝負。特に4月。始まりの2週間。
- ⑬自分基準や同僚基準ではなく、「**子ども基準**」で。
- ⑭思考する子どもを育てるには、**連続性のある問い**を考える。
- ⑮**年齢は実力。ただし、同僚にヒント（知恵）を与えることが条件**である。（アナグマ論）

わたしが尊敬する、剣道の師範がいつも言っていました。

「うまくいかないこと（できないこと）を人の、時代の、環境のせいにするのは簡単。その前にあなたは、目の前のことに、どれだけ工夫して稽古を重ねたのか？2つ3つでうまくいくのなら、みんな苦勞はしない。10いや100の工夫をして達成したときに、また新たな世界が見えるものだ。守・破・離だよ。」

年を重ねた教職員は、**若い頃先輩の後ろ姿、書物に学びました。（なぜなら検索できなかったからです。古いです。が、味があった。）**わたしは、新任の時、聞いてもなかなか答えを教えてくれない先輩にはじめはいらだっていました。空き時間に廊下からこっそり授業を見学したり、運動会の練習や生徒指導で、全体を指導する姿をビデオで撮っておいたりすることで、なんとか技術を身に付けたいと思っていました。

しかし、1学期が終わる頃、その先輩は、わたしに「学級の児童の名前と性格、家庭や学習の状況言える？」と聞いてきました。そして、**3冊のノートを見せてくれました。新しい年度が始まってわずか3か月と少し。一人一人の児童の様子が書かれたノート**でした。「いつ書いていたんですか？」「どんな風にまとめているんですか？」と聞いたと記憶しています。すると「**おまえはすぐ答えを聞くとねー、まずやってみらんね。いろいろ考えんでやってみる。児童理解が第一。**」と言われました。（今、こんな風にノートに取ると「化石」と言われるでしょうが、今もやっています。）その先輩とは、それから3年職場をともにし、多くのことを学びました。4つ先輩でしたが、大きな違いを感じたことを覚えています。しかし、この時の教えが今のわたしの支えになっています。

まずは、**教えを守りとことんやってみる時期**。次は、**ルールを破るのではなく、殻を破って自分なりの工夫を加える時期**。最後は、**何かを残して離れたり、自分の境地に達したりする時期**。大切にしたいと思っています。

読みたくなくなる文章ですみません。学級開きのぞかせていただきます。空気だと思って下さい。